

平成30年度 佐賀県立武雄青陵中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
高い志と未来を切り拓く力持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。	高い志を育てながら、自ら学びに向かう姿勢持つ生徒を育成する。 ・ 学力向上と進路支援の充実 ・ 生徒指導の充実 ・ 保健・安全指導の徹底 ・ 保護者や地域との連携 ・ 組織力の向上、時間外労働時間の縮減

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●学力向上	・指導計画 ・評価計画	・わかる授業・学びのある授業を展開するための計画を策定する。	・指導と評価の一体化が図れる指導計画及び評価計画を実現性を十分に考慮して策定する。
		・学習環境	・個に応じた指導ができる環境をつくる。	・TTや習熟度別指導を適宜採り入れるなど、学力差が広がらない工夫を講じる。
		・授業改善	・多様化する生徒に対し、自ら考え取り組む、主体的な学習が身につくよう、全教科を通じて指導を行う。	・「めあて」を明示する。 ・授業を振り返る場面を設定する。 ・個別演習、グループワーク、『学び合い』、アクティブラーニングなどの多様な展開を活用する。 ・思考力・判断力・表現力を育む発問や課題を採り入れる。
		・授業外の指導改善	・多様化する生徒に対し、自ら考え取り組む、主体的な学習が身につく指導を行う。	・能力に応じて学力向上が図れるような補習授業を実施する。
		・家庭学習	・家庭学習が充実するよう指導を行う。	・授業と関連付けた課題を与える。 ・宿題の意味ややり方を具体的に指導し、次の学びにつながることを理解させる。 ・課題の質と量について、教科間での調整を行う。
		・学習評価	・適正な評価の実施として、観点別評価の積み上げによる総合評価を確立する。	・評価計画を生徒及び保護者に配布し、学習評価について理解を深めてもらう。 ・評価結果について説明責任が果たせるよう、適宜評価方法や評価時期の検証を行う。

② 進路支援の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・学習支援	・基礎学力を充実させるとともに、深く広く学ぶ楽しさを実感できるようにする。	・将来にわたって主体的に学習する姿勢を持つことができるような探究的授業を実践する。
	○キャリア教育	・探究活動	・将来にわたる自己の在り方・生き方について考え、主体的に進路を決める姿勢を培う。	・調べ学習やディスカッションを採り入れるなど、「探究」の時間を充実させる。 ・教科横断的・総合的な視点を持って活動を行う。
		・体験活動	・職業観、勤労観が身につく、又は身に付けようと努力する。 ・高校進学後、文理選択や進路目標の設定を主体的に行えるようにする。	・外部講師を活用した職業講話、職場体験、職場見学、また職業調べ等を実施し、仕事や働く意味について考える契機とする。

③ 生徒指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・読書活動の推進	・豊かな心と高い志を育成するため、良質な本に数多く触れる機会を作る。	・学級文庫の充実や青陵タイム等における読書の励行。 ・「図書館だより」等、広報活動による読書啓発。
		・礼儀作法とマナー	・率先して挨拶ができ、言葉遣いにも注意を払うことができる。	・登校指導をはじめ日常的に挨拶指導や言葉遣いの指導を行う。
	●いじめの問題への対応	・自他の存在を尊重する生徒の育成	・相手のことを考え、正しい判断や行動ができるようにする。 ・いじめの早期発見、早期解決に努める。	・いじめをしない、させない学校づくりを目指した生徒会活動や学級活動に取り組む。 ・面談や生活アンケートを活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、いじめの芽を早期に発見する。 ・いじめ・体罰等対策委員会において、事案発生時の対応について共通理解を図り、また教職員全体でも共通理解を図る。

④ 保健・安全指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成	・3点(起床、学習開始、就寝)固定を定着させる。 ・朝食摂取率を95%以上にする。	・SDノート等を用いて生徒の生活実態を把握し、教育相談などを利用して適切に指導・助言を行う。 ・朝食の摂取状況について調査し、食育だよりや保健だより等で朝食の大切さについて呼びかけるとともに、保護者への協力を依頼する。
		・自己管理	・健康に対する意識を高め、健康の保持・増進に努める。	・健康診断の意義・必要性について事前指導を行い、検診率の向上を図る。 ・健康増進を図るため、健康診断の結果をもとに個人指導に努める。 ・「保健だより」発行などを通して、身近な保健情報を提供する。

⑤ 業務改善を図るとともに、情報発信、地域との連携に努め、開かれた学校づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の推進	・時間を意識した効率的、効果的な学習指導、生徒指導、部活指導に努め、教職員の時間外労働時間については、前年比10%縮減する。	・分掌業務が主任をはじめ特定の職員に偏らないよう、マネジメントを行う。 ・担任の負担軽減のため、副担任へ依頼しやすい雰囲気づくりを行う。 ・休日に活動する部活動の顧問間での分担を調整し、著しく偏りがないようにする。
		・校務の効率化に努めたか	・定例の業務の引き継ぎを効率的に行う。 ・校務の整理や役割分担の明確化、行事の精選等に取り組む。	・前年踏襲だけではなく、現在の学校の現状にマッチした取り組みを考えながら、校務全体を見直す。 ・行事等において、今年度分が終了次第、次年度開催の有無も含めた反省点の検証を行う。 ・各分掌及び学年の長は、次年度への「引継書」を作成し、有効でスムーズな引継ぎを行う。
	○保護者・地域との関係	・情報発信	・学校だよりやホームページ等により学校の活動について積極的に広報活動を行い、学校への理解を得よう努める。	・学級新聞や隔月に1回の「学校だより」により、地域や中学校への情報発信を拡充する。 ・ホームページの更新をこまめに行い、青陵中学校の理解に努め、魅力がより伝わるようにする。
		・開かれた学校づくり	・地域と学校の関わりを具体化し、開かれた学校づくりを目指す。	・地域や地元自治体のイベントに参加したり活用したりする。 ・地域への奉仕活動を実施する。

⑥ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○グローバル化	・国際交流	・積極的に国際交流に取り組み、異文化理解、自国文化理解に努める。 ・英語によるコミュニケーション能力が向上する。 (英検2級・準2級を合わせて70名以上、3級を100名以上にする)	・「探究」の時間を活用し、国際交流の機会を設ける。 ・海外交流校(韓国:華陽中学校)との交流活動を充実させる。 ・様々な国際交流事業を紹介し、積極的な参加を促す。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目